

# 靖國神社と聖戦史観 —A級戦犯こそ靖國にふさわしい

内田雅敏 = 著

## 72頁増頁の追録三刷版!!

靖國神社問題の核心は政教分離より歴史認識と戦死者の「魂独占」の虚構である!  
死者の魂鎮めを一宗教法人に委ねていいのか!  
全ての戦没者の為に無宗教の国立追悼施設を!



著者略歴 内田雅敏(うちだ・まさとし)

1945年愛知県生まれ。75年東京弁護士会登録。  
日弁連人権委員、同接見交通権確立実行委員会委員長、関東弁護士会連合会憲法問題協議会委員長を経て、現在日弁連憲法委員会幹事。  
弁護士として通常業務のほかに強制連行・強制労働、靖國等の歴史問題に取り組む。  
中国人強制労働花岡事件(鹿島建設)、同西松建設事件、同三菱マテリアル事件等の和解に尽力した。  
著書に『元徴用工和解への道』(ちくま新書)、『和解は可能か』(岩波ブックレット)、『靖國参拝の何が問題か』(平凡社新書)、『戦後補償を考える』(講談社現代新書)、『「平和資源」としての日中共同声明』(スペース伽耶)、『戦後が若かった頃に思いを馳せよう』(三一書房)、『想像力と複眼的思考』(スペース伽耶)、『乗っ取り弁護士』(ちくま文庫)等。  
共著に『在日からの手紙』(姜尚中共著(太田出版))、『憲法9条と専守防衛』(箕輪登共著(梨の木舎)他)。

〈本文より〉  
巷間、中国、韓国からの靖國神社参拝批判に対して、戦没者に対する追悼はどこの国でもやっている、何故それが批判されるのか、と反論がなされることとあります。毎年8月15日、武道館で政府主催による戦没者追悼式が行われていますが、この追悼式を中国、韓国らが批判することはありません。それはどこの国でも行っているからです。靖國神社参拝批判は、戦没者に対する追悼批判ではなく、靖國神社という場でそれが行われることへの批判なのです。  
巷間、靖國神社にA級戦犯を合祀したから中国、韓国から批判される、この際、A級戦犯の方々に余所に移ってもらおうという、いわゆるA級戦犯分祀論も唱えられます。A級戦犯を分祀すれば問題の解決となるのでしょうか。否です。解決とはなりません。それは、靖國神社がA級戦犯を合祀していることが問題ではなく、靖國神社がA級戦犯合祀に象徴される「聖戦史観」に依って立つ戦争神社であるからです。

この本は戦後の平和護憲運動の欠落を埋める紙碑である!



書店番線	発行:藤田印刷エクセレントブックス TEL0154-22-4165
月日	靖國神社と聖戦史観 —A級戦犯こそ靖國にふさわしい 〈追録三刷版〉
冊	定価1980円(税込) ISBN 978-4-86538-181-8 C0295 ¥1800E 内田雅敏 = 著 2026年2月11日 第3刷発行 発行 藤田印刷エクセレントブックス 判型 新書判(416頁) 定価 1980円(税込) 印刷・製本 藤田印刷株式会社

ご注文はJRCへ FAX03-3294-2177まで